



## 2022年度都道府県指導者養成研修 がん化学療法チーム研修企画



九州がんセンター  
医師：奥村 祐太  
薬剤師：久松 大祐  
看護師：鳥越 勇生  
MSW：松尾 由佳

病院名：九州がんセンター  
都道府県名：福岡県

## 都道府県の情報

都道府県内の総人口  
がん死亡者数 (%)  
高齢化率

511万8625人 (R4年4月)  
1万5474人 (0.31%) H30年  
27.9% (R4年4月)

九州がんセンター



病院名：九州がんセンター

都道府県名：福岡県

## 都道府県内のがん患者の状況

がん種	罹患者数	罹患率 (人口10万対)	死亡者数	死亡率 (人口10万対)
肺がん	5407人	105.9	3113人	61.7
大腸がん	7486人	146.6	2137人	42.4
胃がん	4865人	95.3	1680人	33.3
乳がん	4034人	79.0	648人	12.8
肝臓がん	2091人	40.9	1394人	27.6

### 福岡県の特徴

- ・昭和52年(1977年)から死亡原因の第1位となっている
- ・高齢化の進展に伴い、がんの死亡数・死亡率は増加傾向となっている

病院名：九州がんセンター  
都道府県名：福岡県

# がん診療連携拠点病院の情報

## ■ 都道府県がん診療連携拠点病院 2施設

九州大学病院	1267床
九州がんセンター	411床

## ■ 地域がん診療連携拠点病院 20施設

九州医療センター	702床	聖マリア病院	1097床
済生会福岡総合病院	390床	公立八女総合病院	300床
福岡大学病院	915床	大牟田市立病院	320床
浜の町病院	468床	飯塚病院	1048床
九州中央病院	330床	社会保険田川病院	335床
原三信病院	359床	北九州市立医療センター	636床
福岡赤十字病院	509床	JCHO九州病院	575床
福岡和白病院	369床	産業医科大学病院	678床
福岡東医療センター	549床	戸畑共立病院	218床
久留米大学病院	1018床	九州労災病院	450床

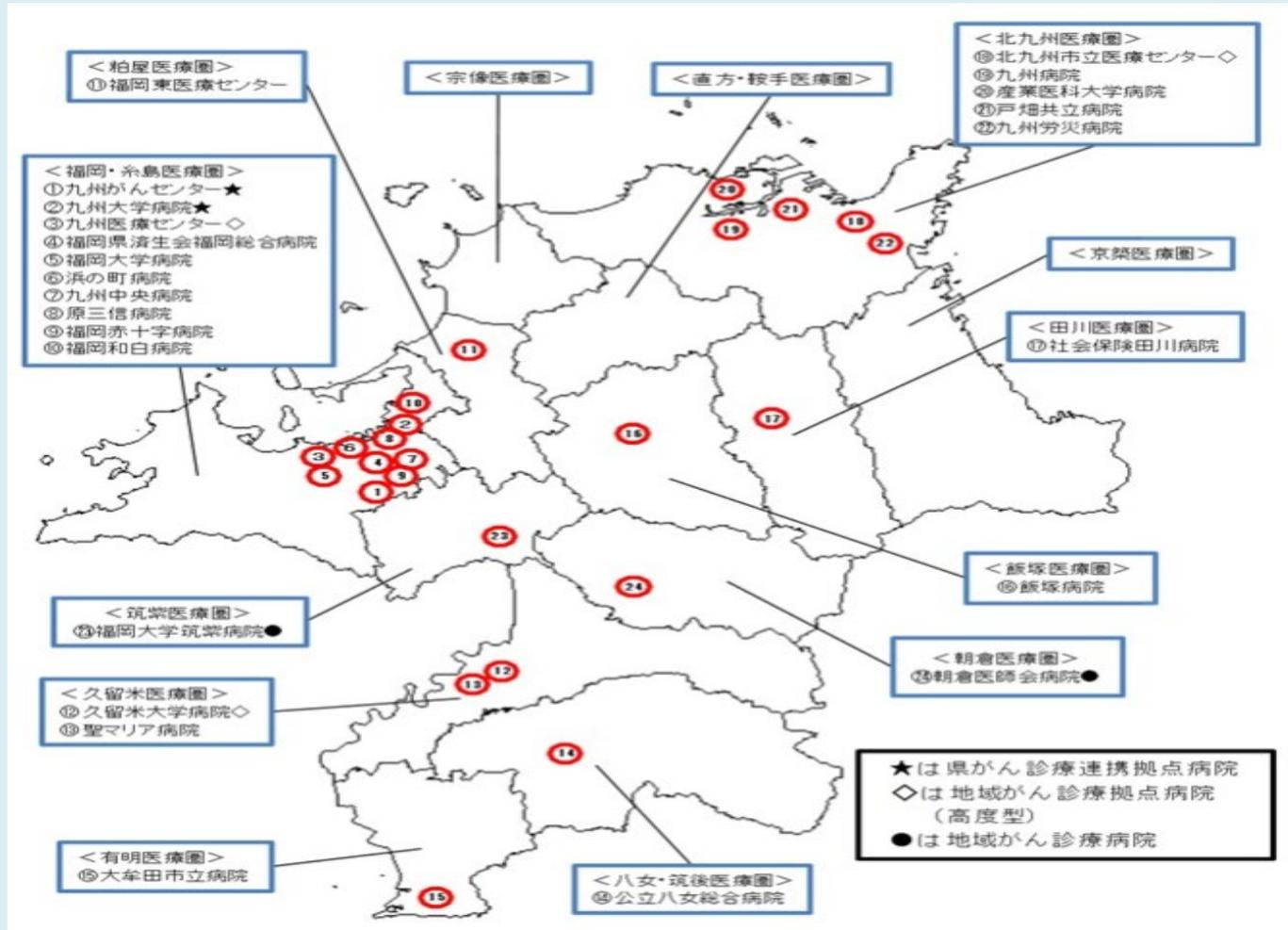
病院名 : 九州がんセンター  
都道府県名 : 福岡県

## がん診療病院の情報

■ 地域がん診療病院	2施設
福岡大学筑紫病院	310床
朝倉医師会病院	224床

病院名:九州がんセンター  
都道府県名:福岡県

# 福岡県内のがん拠点病院情報



## 都道府県におけるがん医療の特性

- ・福岡県は、①福岡、②北九州、③筑後、④筑豊の4つのブロックに分かれている
- ・がん拠点病院が福岡・北九州ブロックに集中している  
筑後・筑豊ブロックにおいては、医療機関が点在しており、  
拠点病院が少なく医療体制に偏りがある
- ・がん医療に携わる専門医や専門職が福岡ブロックに集中している
- ・九州県内の他県や島から通院される患者が多い

## 都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

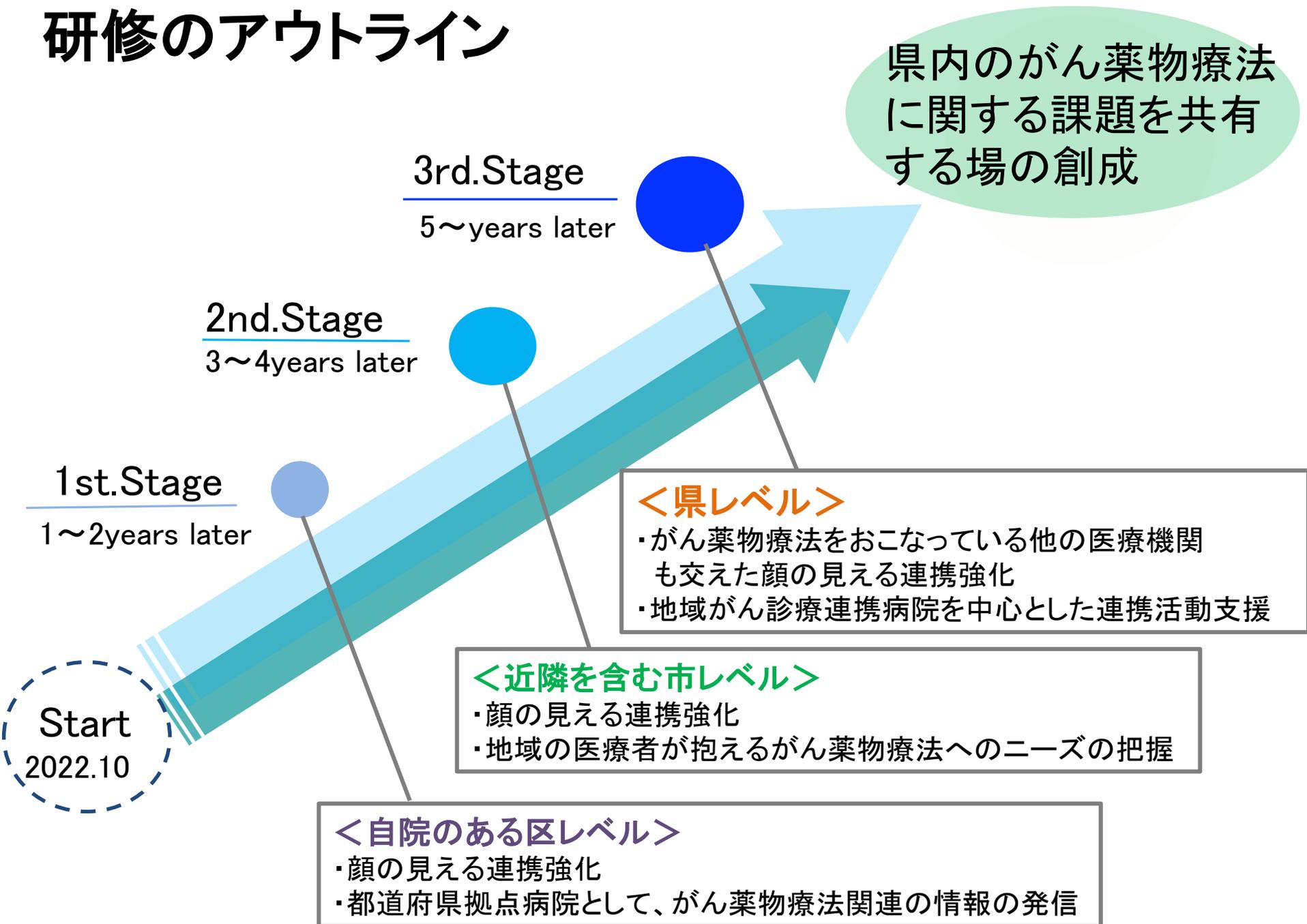
### 【現状】

- ・がん薬物療法の知識や経験に関して地域・施設間で偏りがある
- ・がん診療連携拠点病院間で現場レベルでの情報共有の場がない
- ・在院日数は短縮し、通院治療にシフトしている
- ・遠方からの通院患者も多く、地域医療連携の重要性が高まっている
- ・新規薬剤(免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬)の登場とともに、対応すべき有害事象も多様化している

### 【課題】

- ・がん診療の均てん化の推進
- ・がん診療連携拠点病院間での連携強化
- ・地域の病院や診療所、訪問看護ステーション、薬局などとの連携による切れ目のない医療の実践と体制の構築

# 研修のアウトライン



# 研修の概要

【タイトル】福岡県がん薬物療法チーム研修(現地開催またはWeb)  
・福岡県のがん薬物療法の現状と課題  
ーがん診療にかかわる医療機関と顔の見える連携を目指してー

## 【目的】

がん薬物療法における現状を共有し、施設間の連携強化を図る  
がん薬物療法の均てん化、質の向上を図る

## 【対象者・人数】

九州がんセンターと同一区でがん診療に従事する多職種  
(クリニックや訪問看護ステーションなど当院と関わりがある施設を重点的に)

## 【目標】

### 一般目標 (GIO)

がん薬物療法について有害事象対策(ICI、irAEなど)を理解できる  
がん薬物療法における現状と課題を共有することができる  
施設間の連携強化の必要性が理解できる

### 到達目標 (SBO)

- ・最新のがん薬物療法の現状について知ることができる
- ・自施設のがん薬物療法の現状と課題を把握し、課題解決法について考察できる
- ・施設間での連携を深め、情報共有ができる

# プログラム

開始	終了	時間	研修方法	内容
10:00	10:15	15分	オリエンテーション	趣旨説明、グループワークの説明 アンケート記入
10:15	10:30	15分	施設・チーム紹介	各施設紹介
10:30	11:00	30分	レクチャー	最新のがん薬物療法(医師から)
11:00	11:15	15分	レクチャー	最新のがん薬物療法(薬剤師から)
11:15	11:25	10分	休憩	
11:25	11:40	15分	レクチャー	最新のがん薬物療法(看護師から)
11:55	12:05	15分	レクチャー	がん薬物療法を受ける患者の支援 MSWから
12:05	12:35	30分	施設別グループワーク	自施設の現状と課題について 実施可能な課題解決を考える
12:35	12:45	10分	休憩	
12:45	13:15	30分	発表	施設間での意見交換 ディスカッション
13:15	13:30	15分	まとめ	総括、アンケート記入

# 研修の評価

---

## 【実施評価】

・研修参加希望施設数、研修会開催日時・場所・開催方法(現地・Web等)・予算等が適切であったかの評価を行う

## 【結果評価】

・研修前後のアンケートを比較して、研修会内容の満足度、がん薬物療法におけるチーム医療の必要性の理解度、自施設での課題把握の程度、課題解決達成の見込みの程度について評価を行う

## 【企画評価】

・研修会の内容や研修方法、主催者側の進行が適切であったかについて、アンケート結果も踏まえて評価を行う

・アンケート項目から、次回以降の企画のヒント(連携施設のニーズ)が抽出できたか評価を行う

---